

このコーナーでは、町内で頑張っている人や魅力的な団体などを紹介します。  
皆さんの活動を広報紙でPRしてみませんか。申込方法など詳細は秘書広報課広報広聴係（☎34-2069）まで。

## 活動の様子

ダイヤモンド賞を  
取りました！



- 男女ともに楽しめる
- ルールが簡単
- 手頃な時間で楽しめる
- 一人でも参加できる
- 初心者でも楽しめる
- 経済的負担が少ない
- 運動不足の解消になる
- 身体が不自由な人も楽しめる

## グラウンド・ゴルフの魅力

- 友人や知人が増える
- 人と話す機会が増える
- 楽しい気持ちになる
- ホールインワンをすると気持ちがいい
- いろいろな情報が得られる
- 規則正しい生活ができる
- 歩くことに負担を感じなくなる

## グラウンド・ゴルフの効果

子どもから高齢者まですべての人が、楽しくプレーできるスポーツです。ルールも簡単なため、どこでも、誰でも、気軽に楽しむことができます。

## グラウンド・ゴルフとは

この町で健康でいきいきと暮らすため、グラウンド・ゴルフを楽しみませんか。

# 田原本町グラウンド・ゴルフ協会

# 輝く まち・ひと

Vol. 36

## 活動日時など

興味のある人はお気軽にお越しください。  
役員（緑の帽子をかぶっています）に声をかけていただければご案内します。クラブなどの備品の貸し出しも行っています。

**活動日時** 毎週火・金曜日  
午前8時30分～11時ごろ

**場所** 健民運動場

**☎** グラウンド・ゴルフ協会  
(松川/☎080-1436-9233)

町健民運動場を拠点に、会員の「健康づくり」「仲間づくり」をモットーに、ルールとエチケットを大切に楽しんでいきます。いつまでも元気で仲良くプレーを楽しみたいと、練習や大会を行っています。

田原本町グラウンド・ゴルフ協会は、先輩諸氏のご努力により平成5年に設立された、生涯スポーツを行う団体です。

## 私たちと一緒に 楽しみませんか



田原本町  
グラウンド・ゴルフ協会  
会長 松川恵宥さん

## 子どもが無断でオンラインゲームに課金を !!



ペアレンタルコントロール：総務省

### ■子どもがゲームなどで無断課金する3つの場面

1. 保護者のスマートフォンやタブレット端末を、保護者の（Apple や Google の）アカウントにログインした状態で子どもに渡す。
2. 保護者の古いスマートフォンやタブレット端末を、自宅の Wi-Fi に繋げて遊ばせるため、保護者のアカウントにログインした状態で子どもに渡す。
3. 子ども専用のスマートフォンやタブレット端末を契約し「ペアレンタルコントロール」機能を設定しないまま、子どもに渡す。

### ■無断課金が生じやすい理由

1. 保護者のアカウントにログインした状態で遊ばせると、子どもが保護者の決済を利用してしまふ。
2. 保護者のアカウントでログインしている状態では、たとえ決済の都度、承認を得る設定にしていたとしても、子どもがその設定を変更できてしまふ。
3. 子ども用に契約したスマホであっても「ペアレンタルコントロール」機能を利用していなければ無断でキャリア決済が可能になる。
4. 保護者が決済完了メールを見落としていたため、課金に気づかなかった。
5. 子ども自身にお金を使っているという認識がない場合がある。

### ■無断課金を防ぐには

1. 保護者のスマホで遊ばせる場合は保護者のアカウントは必ずログオフにする。
2. 保護者の古いスマホや子ども専用のスマホで遊ばせる場合は、子ども専用のアカウントを作成し「ペアレンタルコントロール」機能を利用して保護者が管理する。
3. 決済時の承認（パスワード・指紋認証・顔認証など）を設定する。
4. クレジットカード、キャリア決済を適切に管理する。
5. 日ごろから決済完了メールや明細を確認する。
6. 子どもと一緒に対策を考える。
7. 未成年者が保護者の同意なく契約した場合は取り消すことができる。
8. トラブルが生じた場合は、消費者ホットライン“188”へ相談する。

### 消費生活相談

商品やサービスに関する相談

日時 毎週火・金曜日（祝日、年末年始を除く）  
午前10時～午後3時

担当 消費生活相談員

相談方法 電話・面談

固 ☎ 32-2901（内線174）

## 今やろう！ 防災アクション



Vol.47

固 防災課安全防災係 ☎ 34-2059



コミュニティ FM ラジオ「FM まほろば」では、緊急時に災害情報などを放送します

## コミュニケーションという備え

「災害が発生したら、その時助け合えばいい」と思っている人がいるかもしれませんが、ご近所や地域の人々との良好な関係は災害時突然築けるものではありません。普段から支え合う関係が、大規模災害における犠牲を最小限に食い止めるために大きな役割を果たします。

阪神淡路大震災では、瓦礫の下から救出された人のうち、約8割が家族や近所の住民らによって救出されました。

また、避難所生活では不自由な環境の中で、皆で助け合って生活することになります。日ごろから挨拶を交わすなど、ご近所との付き合いの輪を広げることが重要です。